

本質的価値と構成要素について

(1) 本史跡の本質的価値

①中山道は、歴史ある主要街道の一つである

中山道は、江戸時代の五街道のひとつであり、東海道等と並んで江戸と京都を結ぶ主要街道でした。人の往来だけではなく、多くの文物も交流していました。

また皇女和宮に代表されるように著名な人物の通行や、地域の人々が本史跡にどのような関わったのかを示す史料も多く残されています（歴史性に富んでいます）。

②大きな改変が加えられておらず、良好な状態をとどめている

瑞浪市域の中山道は瑞浪市北部の山間地域を通行していることから、アスファルト舗装がなされていない往時の地道や石畳が残されており、4対の一里塚などの道路遺構も良好な状態をとどめています。

江戸時代の絵図等と現況を比較しても、その保存状態の良さを確認することができます。

③地域の人たちによって、現在に至っても街道として機能し続けている

中山道は、江戸時代から地域の人たちにより維持・管理されてきました。現在も同様に利用されており、当時のまま生き続けている道路です。そして、生活道路としてだけではなくウォーキング等にも活用されて多くの人々に親しまれています。

(2) 構成要素

①史跡を構成する要素として以下のように分類します。

A：本質的価値を有する諸要素

B：本質的価値を有する諸要素以外の諸要素

B-1：歴史的価値を有する諸要素

B-2：保存・活用に資する諸要素

B-3：調整が必要な諸要素

C：史跡指定地外の関係する諸要素（史跡の理解に有効な諸要素）

②該当する構成要素

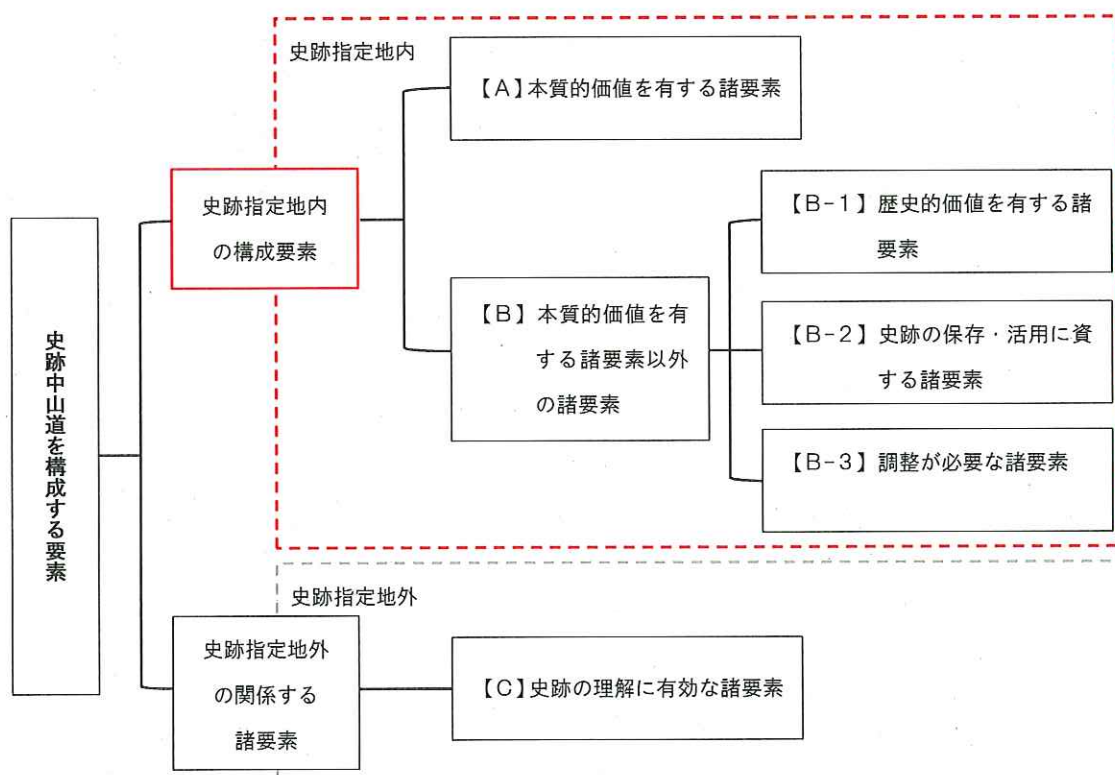
A…街道（往時からの地道）、石畳、一里塚、近世から残されている石仏など

B-1…近代以降の石仏や石碑

B-2…サインや誘導板、ベンチなどの便益施設

B-3…電柱、ゴルフ場周辺のネット、ゴルフ場石畳、獣害対策電気柵、水道施設など

C…大湫宿や細久手宿、琵琶峠頂上の石碑やトイレ、展望所、奥之田の擬木階段など



本質的価値と構成要素の概念図